

■児童・生徒の学力の状況

- 令和4年度、5年度の「全国学力・学習状況調査」において、無回答率がすべての教科で1%を下回った。自分なりに考えたことを表現しようしたり、最後まで粘り強く問題に取り組もうとしたりする姿勢が、多くの児童に見られるようになったことは、授業改善に向けたこれまでの取組の成果といえる。
- 令和4年度の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「1日の睡眠時間が6時間未満」と回答した児童の割合が東京都を大きく上回った。健康的な生活習慣が身に付いていない児童の割合が高く、中学受験に向けて無理をして学習に取り組んでいる様子がうかがえる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 問題解決型の「学びのサイクル」の考えに基づき、本時のめあてを示し、まとめの振り返りを行う授業スタイルが概ねできている。しかし児童が対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫していく必要がある。
- 授業づくりでは、「認識」input・「思考」think・「表現」outputを意識して指導計画に取り入れていく。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 児童が習得した知識を活用して考える力や自分の考え・思いを表現し伝え合う力を育むために、問題解決型・探究型の学習活動や体験活動を重視し、授業改革を進める。
- 自己の学びを振り返ることのできるノート指導に重点を置き、協働学習は少人数指導などを活用して、主体的に学ぶ学習の充実を目指す。
- 「図書館を使った調べるコンクール」への参加をはじめ、自らが課題を設定し、調べる、考察する、発表する活動を計画的に行い、総合的な力を育む。
- 個に応じた指導を実施するとともに、放課後の学習を活用し、児童の基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- 授業におけるルールとマナーを共通理解し、家庭と連携して習慣化できるようにする。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○板橋区授業スタンダードとなる「学びのサイクル」を取り入れる。 ○「めあて」とそれに対する「まとめ」や「ふりかえり」を書く時間を設定し児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりが自分の考えをもてるよう時間に十分に確保する。 ○語彙力を高めることを意識するとともに、①「読む」目的を明確にする②自分の考えを書く活動を増やす③読書活動を引き続き推進していくことなど学習場面を意図的に作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間の全体計画・年間計画にキャリア教育、SDGs、郷土愛の育成を重点として位置付ける。 ○東京2020レガシーとして、ボランティア活動や障がい者理解、国際感覚の醸成を継続して推進する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育（せせらぎ学びのエリア）推進の重点として以下の3点を置く。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着 児童・生徒のつまずきを見し、支援策を事前に検討した指導案を小・中学校ともに活用する。 ・タブレット活用 ○Chromebook活用推進プランの共有 ・体験活動の重視、調べる学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究「互いに学び合い、自らの学びを深める体育学習～『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実～」 <ul style="list-style-type: none"> ・6年間を通した段階的で連続性のある学習過程を全学年・学級が確実に実践する。 ○算数科における習熟度別指導、診断テスト、S P表分析を全学年で実施 <ul style="list-style-type: none"> ・診断テスト及び分析結果に基づいた個別指導（つまずきの克服）を放課後学習や家庭学習等で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育のICT化を推進する。タブレットPC、大型電子黒板、実物投影機やデジタル教材などを全学級で効果的に活用し、児童の考えの共有化を図ったり重要な部分を拡大して提示することで理解を深めたりする ○一人一台端末の学習ソフト「オクリンク」「ムーブノート」を活用し、話し合いの内容を共有したり、学習の振り返りや自分の考えをポートフォリオしたりできるようにしていく。